

事務事業名		(仮称)さのまちづくり株式会社出資金				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	1 地域の特色を活かした快適なまちづくり				担当組織	担当部	都市建設部	担当課	都市計画課
	政策	2 住みやすい快適なまちづくり				担当係	まちなか活性化係		担当課長名	越石 彰
	施策	2 まちなかの活性化と公共交通網の整備				新規事業・継続事業		新規事業		
	基本事業	1 計画的な中心市街地活性化の推進				実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	事業区分				
	11469	一般	8	4	1	(仮称)さのまちづくり株式会社出資金				
事業計画	単年度のみ		事業期間	27年度		根拠法令 条例等	中心市街地活性化に関する法律			
						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
						任意的事業・義務的事业		任意的事業		
						実施方法		直営		
						事業分類		その他内部事務事業		
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		3-1		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		平成27年度実績(平成27年度に行った主な活動内容)					
にぎわいのある中心市街地の牽引役として、行政と民間が相互に連携し、民間の知恵を利用したまちづくり会社が必要であるため、本市がまちづくり会社へ出資を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年6月26日、7月14日に「(仮称)さのまちづくり株式会社」設立発起人会が行われた際に、事務局として支援を行った。また、会社設立までに数回の発起人会を開催予定である。</li> <li>佐野市まちなか活性化推進協議会の「まちづくり会社設立プロジェクトチーム」の打ち合わせを行った。</li> <li>平成27年10月2日、さのまちづくり株式会社が設立された。</li> </ul>					
活動指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	29年度(見込)
歩行者通行量(平日、中心市街地の5か所)		人	5,276	5,742	4,976	5,500	5,600
中心市街地人口(20町会、住基1月1日現在)		人	7,875	7,732	7,580	7,518	7,257

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

(仮称)さのまちづくり株式会社		対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	29年度(見込)
		「佐野市中心市街地活性化基本計画」掲載事業のうち、着手している事業の割合	%	54.9	80.8	82.4	90.0	95.0

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

民間企業である「(仮称)さのまちづくり株式会社」の信用力にもつながり、様々な事業推進が図られ、その効果として、中心市街地が魅力ある空間となれば、民間の投資も持続的に進められ、にぎわいのある中心市街地になることが期待できる。		成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)
		空き店舗数	件	122	137	143	135	130

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

魅力的なにぎわいのある中心市街地の創出		上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)
		まちなかが以前に比べて便利になったと思う市民の割合	%	25.9	25.9	25.8	30.0	31.0

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円			25,000			
	事業費計(A)	千円	0	0	25,000	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	人			2			
	時間			360				
	千円	0	0	1,402	0	0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	26,402	0	0		

事務事業名	(仮称)さのまちづくり株式会社出資金	担当部	都市建設部	担当課	都市計画課	担当係	まちなか活性化係
-------	--------------------	-----	-------	-----	-------	-----	----------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	H25.3.21佐野市まちなか活性化推進協議会において、H25年度より「まちづくり会社」への本格的な研究・推進を行い、H27.10を目途に「まちづくり会社」を設立することとなった。 本市としてもぎわいのある中心市街地の牽引役として、行政と民間が相互に連携し民間の知恵を利用したまちづくり会社が必要であるため、市がまちづくり会社を支援することになった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	定住人口減少、高齢化、空き店舗数の増加など、中心市街地の抱える課題は深刻化する。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	・中心市街地を活性化させることは、本市全体の活性化につながるようになるので、ぜひ中心市街地の活性化を推進してほしいとの要望がある。 ・議会の一般質問において、設立に向けた進捗状況等の質問があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 本市が関わることにより、民間である「まちづくり会社」の信用力にもつながり、様々な事業推進が図られる。また、その効果として、中心市街地が魅力ある空間となれば民間の投資も持続的に行われ、にぎわいある魅力的な中心市街地になることが期待できる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	委ねられる・委ねられる可能性がある	理由・改善案 設立時の出資については市の責務として出資しなければならないが、まちづくり会社の今後の事業展開によっては民間の投資等も期待できる。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 行政と相互に連携し、民間という立場と活力で機能的かつ柔軟にまちづくりを推進する「(仮称)さのまちづくり株式会社」を本市が支援することにより、中心市街地活性化の牽引役を担ってもらうため。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案 (仮称)さのまちづくり株式会社の実施事業を確立させれば目標を達成できる。また、今後の課題として、(仮称)さのまちづくり株式会社と市の役割分担を明確にしなければならない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 *類似事務事業があれば、名称を記入
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 出資金の出資のため
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 この事業の直接的な受益者は、中心市街地の居住者であり、中心市街地の活性化は人口減少社会における持続可能なまちづくりの観点から市民全体の利益として捉えられるため、受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	出資金の出資のため、単年度で終了する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
事業終了	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																							